

若者の投票 当たり前に

宮崎市選管は、若者の投票率向上策を考えるワークショップの報告会を同市役所で開いた。市内3大学の学生が、1月の市長選と市議補選で実施した選挙啓発活動の成果などを、選挙管理委員ら選挙に関わる22人の前で発表した。

ワークショップは若者の政治参加を促そうと、市選管が一昨年度から実施。昨年度は宮崎大の学生ら10人が参加し、宮崎産業経営大の千知岩正継教授(政治学)による講義やグループワークを通して、投票啓発活動案を考えた。



宮崎市 学生が啓発成果発表



活動の成果としては、選挙運動期間中に、メディア露出を通じて活動をPRできたことや、別の学生から選挙

大、宮崎産業経営大の学生8人が発表。大学構内にある期日前投票所への案内を交流サイト(SNS)で情報発信したり、投票前後でデザインの新なる啓発ステッカーを大学や商業施設で配布したりといった活動を伝えた。



1月の市長選と市議補選で実施した選挙啓発活動を発表する宮崎市内大学の学生ら

同市・宮崎大新4年の段遥南さん(21)は「私たち一人一人が選挙に行くのが当たり前になるように、活動を継続していきたい」と話していた。(日高智明)